

医系総合大学の特色を活かした学部連携教育

医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部からなる医系総合大学の利点を生かし、チーム医療に積極的に貢献できる人材を養成するために「学部連携教育」を行う。低～中学年では、チーム医療の基盤作りとして、大学内外での施設を利用した各種の初年次体験実習、PBLチュートリアルなどの問題解決型学習、在宅チーム医療に必要なコミュニケーション演習や技能実習を、高学年では、大学の附属病院や地域・在宅での実践的なチーム医療学習を、いずれも4学部合同カリキュラム（多職種連携教育、interprofessional education :IPE）として実施する。

初年次体験実習 1年次は全寮制の環境を活かした初年次体験実習として、4学部合同の学生グループを作成し、①病院見学、②福祉関連施設体験および地域高齢者訪問実習、③AED+心肺蘇生および外科的救急処置の実習を行い、医療人としてのモチベーションを向上させる。2年次には大学の附属病院で多職種見学実習を行う。看護師、歯科医師、薬剤師、リハビリテーション技師、臨床検査技師の日常業務を体験・見学することでチーム医療の構成員である多くの医療スタッフの役割を理解する。3年次には地域の診療所での体験実習を行う。チーム医療の最小かつ医療最前線でチーム医療がいかに行なわれているかを理解する。

学部連携PBL(Problem-based learning)チュートリアル・TBL(Team-based learning)による問題解決型学習

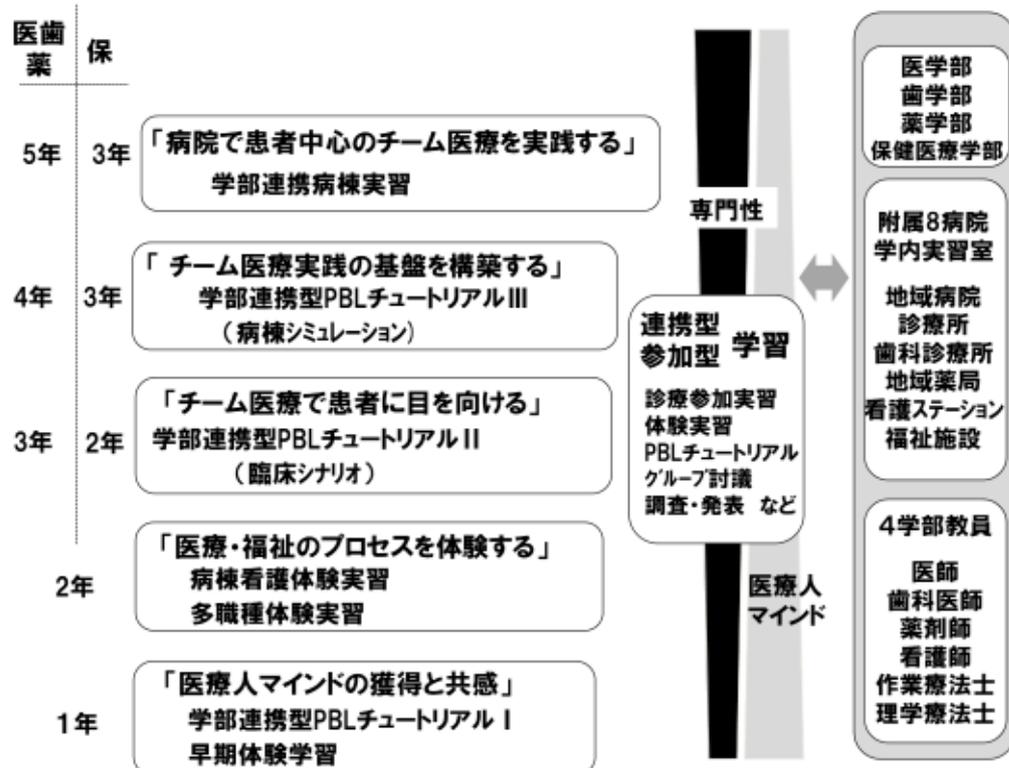
4学部合同学生グループによる討議（学部連携PBLチュートリアルやTBL）を1、2、3、4年次に行う。内容は学年にしたがい、徐々に病院や地域・在宅での臨床の場面設定に近づく累進型とする。1・2年次には身近な話題や在宅患者と家族をテーマとしたPBLやTBLを行い、問題解決型学習の基本を学ぶ。3年次には入院患者症例をもとに臨床シナリオPBLを行い、チーム医療での医師としての問題点を抽出して、グループ討議を行う。4年次には、模擬診療録を用いた病棟シミュレーションPBLと在宅チーム医療TBLを行い、5年次の病棟実習と在宅医療実習のシミュレーションを行う。

高齢者コミュニケーション演習と在宅医療支援演習 3年次に、在宅医療の場で患者を支援するために必要な多くの技能（口腔ケア、服薬支援、生活支援・介助など）を、医師、歯科医師、看護師、作業療法士、理学療法士の指導で学習する。在宅の高齢患者の思いを知り、適切に面談するため、模擬患者とのコミュニケーション演習を行う。

学部連携病棟実習 5年次に歯・薬学部5年生、保健医療学部看護学科・作業療法学科・理学療法学科3年生と学部合同チームを作成し、臨床実習での受け持ち患者を合同チームで1週間担当する学部連携病棟実習を、附属病院の約40病棟で行う。

学部連携地域医療実習 5年次には歯・薬学部5年生、保健医療学部3年生と医療チームを作成し、選択実習として、在宅医療を中心とした地域におけるチーム医療を学習する学部連携地域医療実習を行う。

体系的な学部連携 病院チーム医療学習



体系的な学部連携 在宅チーム医療学習

	～態度～ 思いを受容し支える力	～知識～ チームでの問題発見・解決能力	～技能～ 在宅医療実践力
5～6年 3～4年	高齢者、在宅患者と家族の思い、語り(narrative)を受け入れ、支えるためのコミュニケーション、医療ヒューマンズを涵養する。	高齢者、在宅患者の抱える問題を発見し、解決するために、多職種が連携・協働し、最善の治療・ケアを立案・実践する能力を修得する。	在宅医療のシステムを理解し、高齢者・在宅患者と家族のQOL・ADLを評価・支援する、多職種が共有すべき専門的な技能を修得する。
	【地域の多職種のスタッフと連携し、患者とその家族を支える】		
	・学部連携地域医療実習（選択）		
	・病院実習、地域実習、薬局実習		
3～4年 2～3年	【患者と家族の思いに共感する】 ・高齢者コミュニケーション演習（3/2年）	【在宅医療の問題を共有し解決する】 ・4学部連携TBLⅢ 問題解決(医療チーム)(4/3年) ・4学部連携TBLⅡ 問題解決(家族)(2年)	【在宅患者を支える技能を修得する】 ・在宅医療支援実習（3/2年） （服薬支援、医療・生活介助実習）
1～2年	・地域高齢者訪問実習（1年）	・4学部連携TBLⅠ 課題発見（1年）	・福祉施設体験実習（1年） （支援の仕組みと技能の見学）